

🌲 林業再生講座の学び

林業再生講座におけるアカデミーでの学びの特色は、林業に必要な幅広い分野の知識を習得できること、学校の周りにフィールドがたくさんあり、現場の観察を通して問題解決力を鍛えることです。

林業を行うためには、自然のこと、機械のこと、経営に関することまで、とても幅広い知識が必要です。さらに、林業の現場は、林分状況、作業環境などが毎回異なるため、状況に合わせた課題解決能力が求められます。

先日行われた授業では、生産管理での基本的な考え方や技術を学び、伐採した木材を搬出する現場に行きました。現場の作業工程を観察しながら、物と情報の流れはどうなっているのか、課題はどこにあるのか、解決策を考えます。またアカデミーの校舎に隣接する演習林で、林分の調査を行い、将来的にどのような林分に育てていくかを現場で検討しました。

必要な知識を学び、現場を観察しながら問題解決策を考える、これが学びの特色です。

(助教 杉本和也)



▲ 特用林産物を山村づくりに活かす

きのこや山菜、薬草などは特用林産物と呼ばれ、農林業が生業となっている中山間地域における産物のひとつです。山村づくり講座では、「林産物実習」においてきのこの利用を、「有用植物実習」において山菜や薬草の利用を学んでいます。

「林産物実習」は「秋冬編」と「春夏編」の2部構成となっており、野生きのこを採取して名前を調べたり、マイタケ、ムキタケ、シイタケなどの原木栽培やマツタケ山の整備を行っています。「有用植物実習」では、この春にタラノキとクサソテツ(こごみ)、コシアブラ(ごんぜつ)の増殖試験を行いました。種根を植え込んだプランターからは次々と芽が出始めています。また、古くから薬草の主要な産地となっている伊吹山に行き、自生地を見学し、利用の歴史などについて学ぶことができました。あまり重要視されない特用林産物(きのこや山菜)ですが、これらの実習を通してその利用の歴史・文化を振り返り、さらに新しい栽培技術や利用方法なども取り入れて山村の活性化に活かしてほしいと思います。(※「有用植物実習」は林業再生講座の学生も受講しています)

(准教授 津田格)



🍄 自然体験指導者・インタープリター養成コース

自然学校やビジターセンターなど、環境教育や自然体験を仕事にしていきたい人が学ぶ、「自然体験活動指導者・インタープリター養成コース」の授業の特徴は、なんといってもナマの現場を活かした実習の多さと学習環境の良さにあります。

学内や学校周辺で毎日のように実施している、森のようちえん、プレーパーク、長期キャンプ、観察会を現場にした実習は、まるで自然学校そのもの。さらに敷地内には、120種以上の野鳥が生息する広大な演習林(33ha)があり、10分も歩けば清流長良川がある自然豊かな環境にあります。

このような大変恵まれた環境の中、座学ではなく、日々、子ども達を相手に、身体に染み込ませていく技術や勘、知恵や知識は、将来の就職現場で即戦力となるべく「本物の力」となっていくでしょう。

(講師 萩原裕作)



森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



自然体験活動指導者
インタープリター養成



木造建築



ものづくり

森と木のエンジニア科



(森林・林業・木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

ブログリニューアルしました!

より詳しい情報は、森林文化アカデミーHPへ。教員や学生がつづるブログは、学校の雰囲気がよく分かります。

森林文化アカデミー

検索

木造建築の改修も学べる

木造建築講座では木造建築の改修の体系学を学ぶ「木造建築病理学課程」があります。日本にある建築系の教育機関では木造の改修についての授業科目は皆無ですので、建築実務者にも好評で、この科目のみを履修する科目等履修生(現在18名)もいます。この授業の中で実際の既存建物の調査を実施しています。

2012年7月に岐阜県下呂市萩原町の天領酒蔵(株)さん(延宝8年、1680年創業)の店舗併用住宅の建物調査を行いました。床下調査、平面図作成、立面図作成、展開図作成、矩計図作成、常時微動測定、シュミットハンマーによる基礎の調査、木材の含水率調査など合計18名にて実施しました。

アカデミーの授業の特徴として、学外の組織や団体と連携して授業を進めていることが挙げられます。本調査も(株)飛騨工務店(岐阜県下呂市萩原町)、アーキ・キューブ(岐阜県岐阜市)、住宅医ネットワーク(岐阜県美濃市)、NPO法人WOODAC(岐阜県美濃市)などとの連携により実現した授業となっています。

(准教授 小原勝彦)



ものづくりと木育

ものづくり講座は、ものをつくることを学ぶ講座ではありますが、それだけではありません。木工と並び力を入れている分野が「木育」です。木を通して、又は、木のものづくりを通して豊かな心を育んでもらうことを目的とした活動です。

幼稚園、保育園で遊ぶ木のおもちゃや小学生などを対象としたちよつとした工作講座などさまざまな活動がありますが、このような活動をするためには、ものを作る技術はもちろんのこと、その上で「伝える」技術も必要になってきます。

ものづくり講座の学生は、ノミやカンナ、木工機械を使って出される課題を作る毎日ですが、一方で生涯学習講座などのスタッフも務めます。そこでは指導する側として受講生たちに接するので、自分の体験に基づいた説得力ある言葉になります。しかし、それでも伝える、教えるということは簡単ではなく、思うように伝わらないことが多いようです。

作る方でも、伝える方でも、少しずつ経験を積み、自分の言葉のボリュームを増していかなければいけません。ものづくり講座ではそのような機会をいくつも用意して、学生たちの「木工」と「木育」のスキルを総合的に高めていきます。

(助教 和田賢治)



エンジニア科の学び

エンジニア科での学びの特色は、専門的な知識を持つ教員による座学や実践的な実習を通して林業に基本的な知識やスキルを習得することです。

先日は、ポケットコンパスやレーザーコンパスを使って、アカデミー周辺の測量を行い、測量の基本を学びました。測量当日は、梅雨時期で雨が降っていましたが、傘を差しながら測量を行い、作業環境が天候に大きく左右される林業という仕事を、身をもって体験していきます。

森づくり実習では、苗畑づくりや植栽、下刈り実習などを行い、道具の使い方から体の動かし方まで、森づくりの基礎知識を体験しながら勉強しています。

また、現場に入った際の事故や怪我を防ぐため、林業における事故事例を取り上げて、原因と対策を考えながら安全意識を向上させる授業もあります。体を使った実習作業や、座学での知識習得を通して、これからの林業を支える現場技術者としての技術力、判断力を磨いていくのです。

(助教 杉本和也)



森と木の就職・転職セミナー 追加開催決定

8月16日(木)札幌・8月17日(金)岐阜
9月9日(日)大阪・9月16日(日)名古屋

入試日程

変更する場合があります。
最新情報はホームページでご確認ください。

森と木のクリエイター科

一般入試2 2012年10月14日(日)
一般入試3 2013年1月27日(日)
一般入試4 2013年3月10日(日)

森と木のエンジニア科

攜入試 2012年10月13日(土)
一般入試 2012年11月17日(日)、2013年3月9日(土)

オープンキャンパス 8月26日(日)開催

お問い合わせ

501-3714 岐阜県美濃市曾代88

岐阜県立森林文化アカデミー

tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529

email info@forest.ac.jp

www.forest.ac.jp